

吉凶の池と大井元の水 (三輪)

吉凶の池

ある寒い日のこと。

お年寄りが若者を連れて山を登っておった。三輪神社裏手の丸山の坂を登っていたときのことだった。

坂道のそばに扇形をした小さな池がある。若者がふと池の中を見ると、池の水が回っているではないか。

「あれ、池の水が回っているぞ。」

若者は急いで近くにいた人たちを呼び集めた。

村人たちは池の中をのぞきこんで、

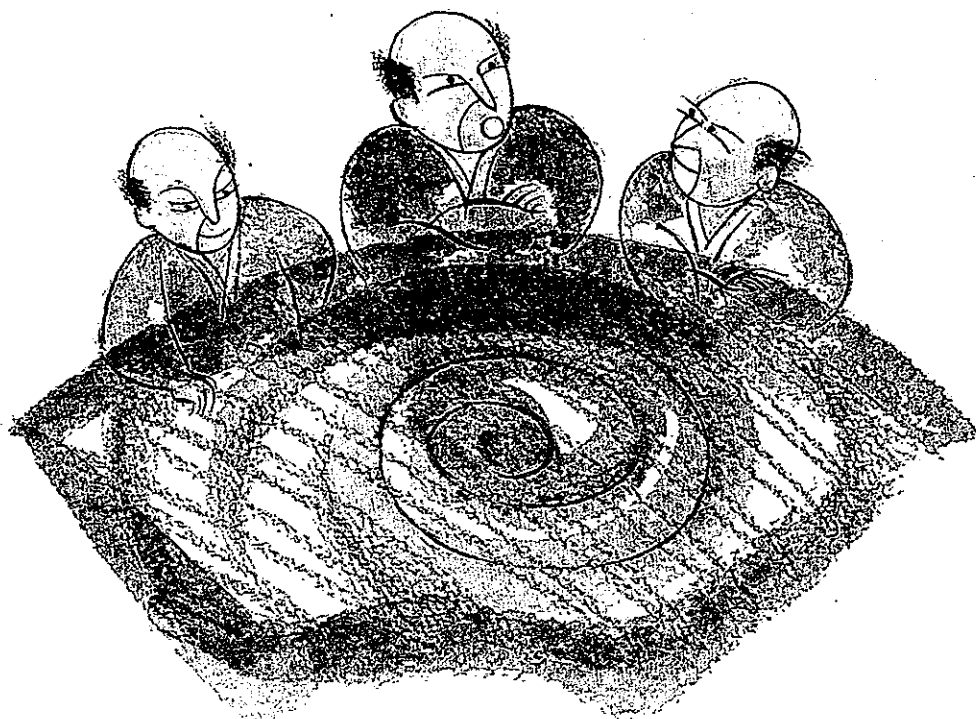
「こりゃたまげた。いったいどういうことだ。」

と、大騒ぎになった。

すると、水の回っている向きを確かめるように池を見ていたお年寄りが、みんなをしずめるように話しはじめた。

「この池は、ときどき池の水が車の輪のように回り、動くんじゃない。この水の回り具合で吉凶(良いこと悪いこと)

を知らせている。水が右回りするとその年は良いことが多く、逆に左回りすると悪いことが起こるといふ知らせ



だから気をつけろということじゃ。だから、この池は古くから吉凶の池と呼んでおる。」
「今は右回りしているぞ。」

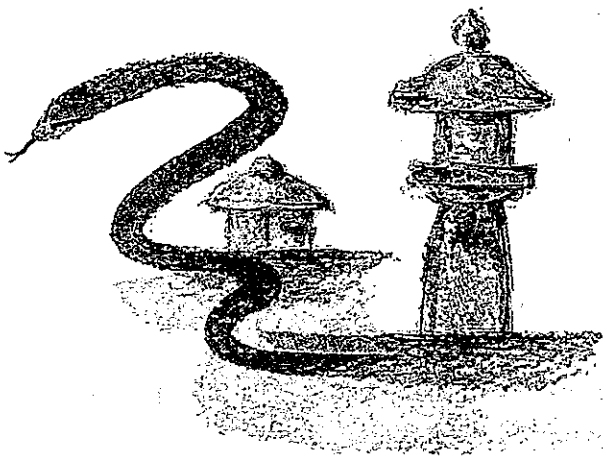
「今年は村で良いことがあるぞ。きつと米がよくとれるにちがいない。」

村人たちは手を取りあつて喜んだ。

大井元の水

吉凶の池のすぐ近く、三輪神社の社務所から西へ少し行つたところに、いつもきれいで冷たい水がこんこんと湧きでている井戸がある。ここを「大井元」と呼び、神さんや仏さんにお供えする水はこの井戸から汲んでいる。どんな日照り続きでも、大雨の時でも水の量は変わることがない。村人たちは三輪神社の神様のお陰だと感謝していた。お酒を造る水にも使われていた。このあたりの人びとの生活に貴重な水源だった。汲んでも汲んでも枯れることがなく、まわりの木枠から水がどんどん流れでるぐらい豊かな井戸だった。

この井戸には屋根がかけてあ



り、中には石で造つた祠と石灯籠が立っている。祠の中には「影向石」※といつて神様が降りてこられるという石がある。祠の内側には「三輪大明神」の文字が刻んである。もしもこの村に災害が起きるときは、風も吹かないのに井戸の水面が波立ち、蛇が現れてこの石に巻きつくと言われている。

実はこの吉凶の池の水と大井元の水は、水脈がつながつていふことだ。どちらも人々の暮らしに役立つといふいろいろなことを伝えてくれる水でもある。少しづつ水量が減つてきていけるけれど、今でもその面影を示すように水が湧きだしている。

※「三輪区史」には、「影降石」とある。